ぴーぷる

まつみや　ようすけ
松宮　洋介

国土交通省
国土技術政策総合研究所
下水道研究部下水道研究室
主任研究官

◆これまでの経歴は

平成２年に当時の建設省に入省して以来，愛知県庁，土木研究所，流域下水道課，下水道機構，ケニア大使館，東京都，下水道事業団で勤務した後，平成18年４月より現在の職場で勤務しております。国，自治体問わず公務員技術者は様々な分野を経験すべしという傾向が強まる中，ケニア大使館以外は全て下水道部署で働きました。そのおかげで下水道界の知人，友人が年の割に多いほうだと自負しています。

◆現在の担当業務は

管きょのアセットマネジメントを担当しています。管きょのアセットマネジメント計画は，①毎年，何キロの管きょを調査，補修，改築すべきかについて超長期計画（100年計画）を立てること，②実際にどこの管を調査，補修，改築するかを重要度に基づいてきめることと考えています。研究では，自治体が計画を合理的に作れるよう管きょの目標耐用年数の設定方法と重要度評価方法の調査研究に尽力しています。

◆本機構と行った仕事，本機構の事業活動についての意見をお聞かせ下さい

現在，システム検討委員会とマンホールの耐震化を検討する委員会の委員をしています。現場の実務を担当しているわけではないので，技術の採用を考慮した意見を出すことはなかなか大変ですが，いろんな委員会に参加していますのでそこで得た情報をもとに素朴な疑問をぶつけるようにしています。「あっちの委員会ではこう言っていたけど，こちらはどうなの？」といった感じです。また，マニュアル等の成果物が，初めて見た人でもすぐに理解できるようなものになるよう，意見を出すことにしています。

財団は産官学連携，委員会チェックが徹底されており，ますます活躍の場が広がると思います。ビジョンの実現に向け邁進されることを期待します。

ふるやしき　なおふみ
古屋敷　直文

㈱東京設計事務所
東京支社新潟支所
技術チームリーダー

◆これまでの経歴は

土木技術社員として平成３年に入社しました。１年目から下水道部に配属されましたので，15年以上にわたって下水道の仕事に携わっていることになります。

入社して数年は管渠や施設の計画設計がほとんどでしたが，その後，施設再構築，高度処理，広域汚泥処理施設の計画設計，雨水浸透を含めた合流改善計画や経営計画など下水道分野で比較的広範囲の業務を行ってきました。

◆現在の担当業務は

現在は新潟に勤務しています。ここでは，普及促進に向けた下水道施設計画・設計に加えて，平成の市町村大合併に伴う新たな下水道構想の策定や下水道経営計画，雨水流出解析モデルを使用した雨水浸水対策計画の立案業務などに携わっています。

◆本機構と行った仕事，本機構の事業活動についての意見をお聞かせ下さい

「下水道管理高度情報化計画策定の手引き（案）」や「下水道処理施設ネットワーク計画策定マニュアル」の策定等に参画させていただいたほか，多くの個別研究を含めて10年以上とぎれることなく下水道機構に関わらせていただいています。

この間には，主任研究員や研究員の方々と，時には部長にも参加していただき，夜を徹して意見交換をしたこともありました。また，普段お話しできる機会がない国や地方公共団体，学会，民間企業の方々から，様々な視点からのご意見や経験談をお聞きすることができ，私にとって下水道機構は，時々つらいときもありますが，技術はもちろんのこと人の橋渡しもしていただいている貴重な場所となっています。

今後とも地球環境保全のために産学官の議論の場を提供し続けるとともに，議論の場をさらに大きな分野に広げていただくことを期待しています。

ぴーぷる

かねこ　ひでひろ
金子　栄廣

山梨大学大学院
医学工学総合研究部
教授

◆これまでの経歴は

幼い頃，わが家のトイレが汲取式から水洗に替わったときが下水道との出会いでした。後に東京大学の学生となり，講義等を通じて下水道のことを専門的に勉強する機会を得ました。学生実験の試料に使うからということでポリタンクを渡されて落合処理場まで何度も採水に通ったことが懐かしく思われます。

研究では，廃棄物に興味があったのでコンポスト化をテーマに選びました。小台処理場から脱水ケーキをもらって実験に悪戦苦闘したこともありました。藤田賢二先生をはじめ多くの先生方のご指導のお陰で何とか学位取得という形で学生生活を全うできました。

その後８年ほど東京大学の助手を務め，約１年の在外研究期間を経たのち，現在の職場に移りました。

◆現在の担当業務は

大学で環境・衛生工学関連科目の講義や実験を担当しています。研究ではコンポスト化のほかにバイオアッセイを用いた排水等の生態毒性評価などを行っています。

◆本機構と行った仕事，本機構の事業活動についての意見をお聞かせ下さい

最初に参加させていただいたのがSPIRIT21プロジェクトです。船水尚行委員長のもとCSO対策に取組みました。また，この委員会で行った夾雑物実態調査について下水道研究発表会で発表させていただく機会も得ました。現在は汚泥処理技術共同研究委員会の委員長を仰せつかっております。ここでは脱水機の開発に関する案件が多いですが，汚泥の有効利用や施設設備の維持管理に関する案件もあり，ニーズの多様さが窺えます。今後，このような多様なニーズを総合的にとらえて将来の下水道のあり方を考える場を提供していただければありがたいと思っております。

まつしま　おさむ
松島　修

（財）下水道新技術推進機構
研究第二部長

◆これまでの経歴は

東京都下水道局に入って最初の仕事は，事業場排水の水質規制でした。その後，処理場の水質管理などに従事し，途中，平成３年度から８年間保健所での環境衛生監視や水道水の水質管理，消費生活センターなどを経験しました。下水道局に戻ってからは，多摩川上流処理場、芝浦処理場，計画調整部計画課，業務部排水指導課に勤務しました。前職は施設管理部環境管理課長で，水再生センターの高度処理，合流改善対策，再生水事業等を担当しました。

◆　これまでで思い出に残る仕事は

平成13年の芝浦処理場での経験です。水質職の先輩でもあった場長が事故で急逝し，年度途中の異動でした。当時は，近年の合流改善の発端となったお台場へのオイルボール漂着問題の真っ只中で，お台場から一番近い芝浦処理場は各方面からその対応が注目されていました。より確実な運転管理方法や消毒方法など雨天時の排水対策について，時には徹夜で検討し，企業の方の協力も得ながら一丸となって取り組みました。それは当時NHKで放映されていた「プロジェクトX」に推薦したくなるような下水道の名誉をかけた真剣な戦いでした。当時の関係者の皆さんには，今でも本当に感謝しています。

◆今後の抱負をお聴かせ下さい

経済環境が厳しい折ですが，地球温暖化問題，省エネルギー等への対応は，より一層の技術開発の推進が重要です。産学官連携のもと，更なる進展を目指していきます。また，下水道機構は自治体，コンサル，ゼネコン，メーカーから気鋭の研究者が集まっており，何かを生み出す力強さを感じます。私は切磋琢磨を活性化する「触媒」のような役割を果たしながら，技術の橋渡しに貢献していきたいと考えています。